

USER REPORT

佐川印刷株式会社

導入機種: RYOBI 924 (LED-UV印刷システム搭載)
2013年9月ご導入



代表取締役社長 佐川 正純 氏

印刷を核に、地域密着のソリューションプロバイダーとして社会に貢献
**省資源、省エネルギーの
RYOBI 924 (LED-UV印刷システム搭載)
で環境に配慮した印刷を提案。**

幅広い事業展開で お客様とのパートナーシップを構築

四国の中核都市、松山市に所在する佐川印刷株式会社。同社は1947年の創業以来、「印刷を通じて地域社会に貢献する」を企業理念として、常に時代を先取りした事業展開を行ってきた。事業内容としては、新聞折込チラシやカタログ、パンフレット、広告などの印刷関連事業から、広告事業、WEBデジタル事業、屋外広告事業、地域ブランド商品の販売などの幅広い事業内容をもつ印刷会社である。印刷事業では通常のオフセット印刷にくわえて、PODを使った小ロット対応、大判ポスターの印刷なども行っている。「ソリューションプロバイダーとして地域のお客様を中心にかわいがってもらえる印刷会社を目指しています。お客様の要望に幅広く対応できるよう、時代の変化に対応した展開を行うべく、社内体制の変革を進めてきました」とクロスメディアを含めた事業エリアに拡大した背景を佐川社長は語っている。

現在の印刷物の生産体制としてはA全判サイズ、菊全判サイズの大型印刷機を設備している松山工場と、PODシステムや小型のオフセット印刷機を設備している吉田工場の2つの拠点で、大量ロットの印刷から小ロット印刷、バリエーション印刷、フォーム印刷まで対応している。CTP、印刷機、製本システムの各機器はJDF対応の経営管理システム(MIS)を中心に連携させ、80%以上の仕事でJDFのプリセットデー

タに基づく自動化を実現できていることは業界でも有名である。また、5S活動など生産体制の効率化や標準化に対して社員一丸となって取り組んで大きな成果を出してきた。

一方、同社では環境保護印刷にも力を入れてきた。2001年にはISO14001の認証を、2010年には愛媛県優良循環型事業認定を取得するなど、環境に配慮した事業展開を実践している。また、E3PAによる「クリオネゴールドプラス」も認証取得している。

LED-UV印刷システム搭載のRYOBI 924を 新たな戦略機と位置づけて導入

品質マネジメントシステムの導入など生産体制の標準化、見える化を進めてきた同社が、かねてより改善すべき課題として注目していたのが印刷物の乾燥によるロスタイムの発生だった。この問題を解消するために、印刷すると即乾燥ができ、すぐに次工程に回すことができるLED-UV印刷システムのメリットに着目した。「印刷の現場を見ると、半乾燥の印刷物がいわゆる仕掛り品の状態で長い間置いてある。スピードの時代にマッチしない生産方式だと常日頃から感じていました。これを改善するため当社では油性印刷機においても、即乾印刷の取り組みを進めてきましたが、パウダーレスと耐摩耗性、用紙の種類による乾燥時間の差にはどうしても限界がありました。そのためUV印刷に是非取り組みた



5Sが行き届いたクリーンな工場でフル稼働する RYOBI 924



MISから転送されたジョブデータで印刷機の自動プリセットを実施

「環境重視を目指す当社の経営方針にも合致しました。」

いと思っていました。同じUV印刷でも省電力のLED-UV印刷システムは環境問題対応や電力料金が上がっている中で、最善の選択だと思いました」と佐川社長はLED-UV印刷システムの導入にいたった経緯を振り返る。A全判対応のRYOBI 924に決定した理由について、「ほとんどの仕事がA全で対応可能で、用紙や刷版等のコストを菊全サイズに比較して大きく抑えることができるので、コストパフォーマンスに非常に優れている点を評価しました。1台の仕事なら小さな額かもしれませんが、年間を通じれば大きな金額となります。もちろん環境にもよく、経営にはこうした小さな積み重ねが大事だと思っています。924とLED-UV印刷システムの連携は、環境重視の事業展開を目指すという当社の経営方針にも合致しました」（川上工場長）



松山工場長
川上 貴紀 氏



営業支援チームマネージャ
一色 映志 氏

の一色映志氏は「これまでも翌日に納めてほしいといった短納期の仕事を受注することはありましたが、LED-UV機を導入してからはその日のうちに納品して欲しいというご要望も出てくるようになりました。これまでお断りしていた超短納期の仕事がLED-UV機で受注できるようになりました」と営業面における効果も実感している。

生産から営業まで高評価が定着

2013年9月にRYOBI 924 (LED-UV印刷システム搭載)を導入後半年が経過し、同社ではチラシ、ページ物、ポスター、書籍印刷など幅広いジャンルの仕事を順調にこなしている。1日8時間で最大20台の印刷実績も出ているという。「特に裏写りや傷が発生しやすいマット紙系の用紙において、LED-UV機では即乾なので安心して任せられます。耐摩耗性も強化されたので、製本など後工程や輸送時のクレームも心配ありません。特に傷などの問題にデリケートな書籍の表紙印刷はLED-UV機に任せることが多くなりました」と松山工場長の川上貴紀氏は導入メリットを強調している。同社ではJapan Color 2011に準拠した色の標準化を、油性の8色両面印刷機とLED-UV機、POD機でも実施し、どの機械で印刷しても同じ色再現が得られる体制を構築している。油性印刷に匹敵する色再現が得られるLED-UV機の進化に対して高い評価をしている。「パウダーを使わないので工場や機械が汚れなくなり、後加工の作業性も向上しました。また、機械の納入に合わせてリョービMHIさんから5Sに関する指導、アドバイスを頂き、当社の5Sのレベルを高めることができました。機械だけでなく様々な相乗効果が生まれています」（佐川社長）

導入後の受注形態について、営業支援チームマネージャ

合成紙、厚紙への印刷など 幅広い領域にビジネスを模索

同社ではマット紙や通常のコート紙への印刷だけでなく、ユポ紙や厚紙への印刷など用紙に対する対応の幅を広げていきたいとしている。また、4色印刷だけでなく特色を使った提案も行っていく予定だ。「印刷業界をとりまく環境は激変しており、私共も常に変化に対応できるよう準備・対応していかないとけません。即乾印刷体制もその一つです。これからもLED-UV機の可能性にかけて色々とチャレンジしていきます」（佐川社長）

佐川印刷株式会社

住所 愛媛県松山市間屋町6番21号
代表 代表取締役社長 佐川 正純
創業 1947年12月
TEL 089-925-7471 (代)

<http://www.sakawa.co.jp/>



※記事内容は、2014年3月取材時の情報を基に作成しています。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

本社	〒726-0002	広島県府中市鶴飼町800-2	0847-40-1600
営業本部	〒114-0003	東京都北区豊島5-2-8	03-3927-3300
東日本支社	〒114-0003	東京都北区豊島5-2-8	03-3927-1031
札幌支店	〒062-0937	北海道札幌市豊平区平岸七条14-3-48	011-831-2501
仙台支店	〒983-0034	宮城県仙台市宮城野区扇町4-2-38	022-237-6210
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中1-2-12	025-384-0275
中日本支社	〒468-0034	愛知県名古屋市中区久方1-145-1	052-807-1671
西日本支社	〒569-1135	大阪府高槻市今城町24-12	072-685-1171
高松営業所	〒761-8057	香川県高松市田村町1095-1	087-866-1051
広島営業所	〒736-0082	広島県広島市安芸区船越南3-7-29	082-823-0068
福岡支店	〒811-2305	福岡県糟屋郡粕屋町柚須107-1	092-623-5005

<http://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>

■代理店